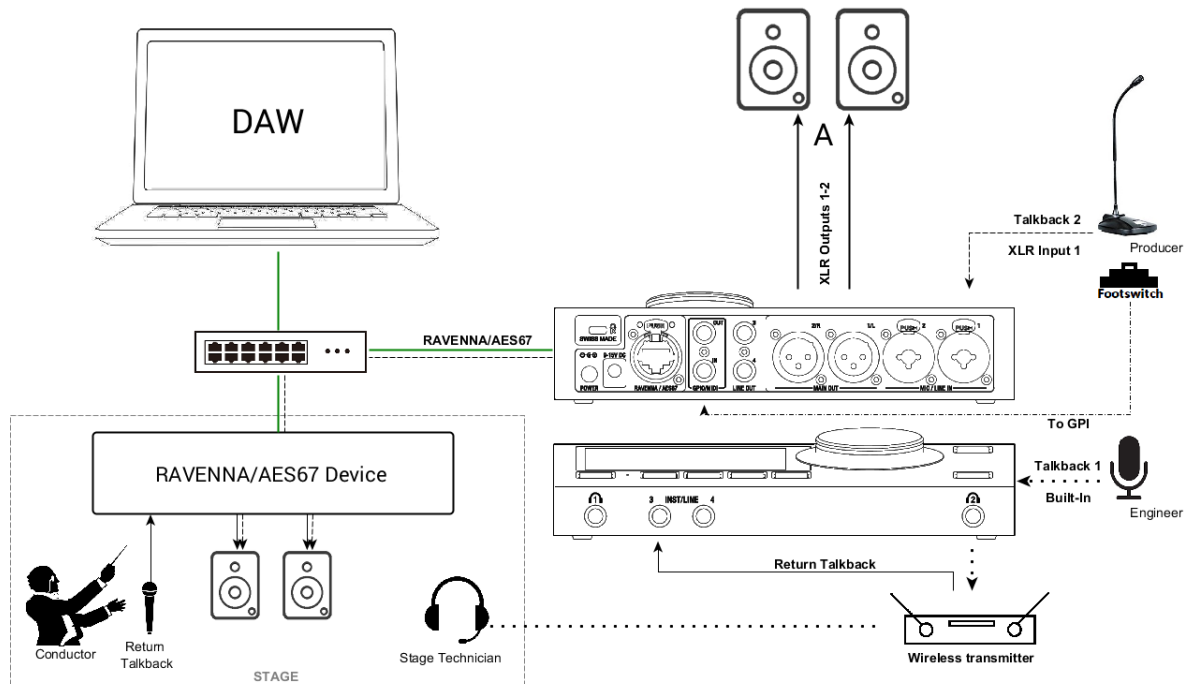




2x Talkback Network Setup



SetUp

HorusやHapiなどの RAVENNA / AES67 機器をステージボックスとして使用した2つのトークバック構成。Anubisをトークバック内蔵のモニタリングコントロールとして使用します。

ここでは、サウンドエンジニアがAnubisの内蔵トークバック#1を使ってステージテクニシャンとコミュニケーションをとります。

プロデューサーは Anubis の入力に接続された外部マイクを使った第2トークバック#2を使って指揮者とコミュニケーションをとります。

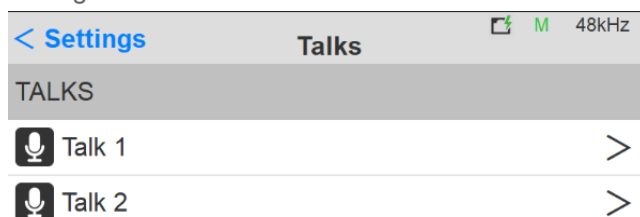
事前事項

使用している PC, Mac に正しく Anubis のドライバーをインストールしてください。

[Recording use case](#) に従ってマイクを接続してください。

設定

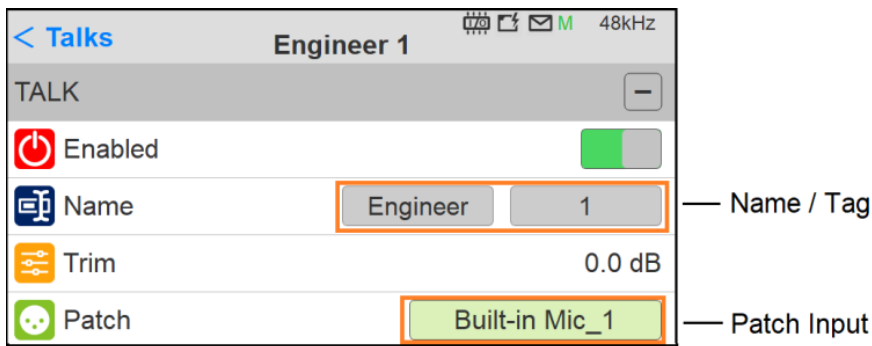
1. Anubis に適切な Monitor Set を設定してください (Speaker Set や Headphone) 。
2. Settings > Talks ページでトークバックを設定します。



3. Talk 1 を開いてください。
4. トークバックを識別できるように、定義済みの名前とタグを選択してください。
5. Talkback 1の入力ソースを選択します。



この入力、Anubis のトークバック用内蔵マイク、またはAnubisの入力に接続されたマイク、またはネットワーク上にある他の RAVENNA / AES67 機器の入力のいずれかです。



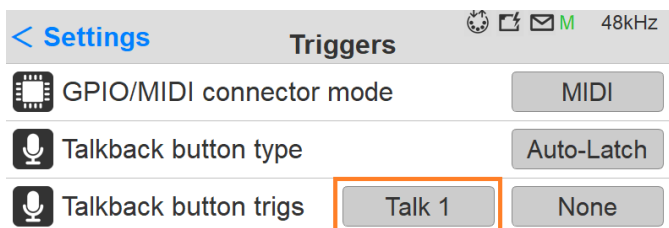
- トークバックのトリガーと起動方法を設定します。

トークバックは、Anubis Talkback ボタンまたは Web Access Monitoring ページ からトリガーすることができます。

この例では、トークバック1のトリガーをAnubisのトークボタンに設定しています。



- Settings > I/O > Triggers の Talkback button trigs で Talk1 を選択し、Anubis の物理的な Talkback ボタンで Talk1 がトリガーされるようにします。



- これで Talkback 1 の設定が完了し、任意のモニターセットに注入できるようになりました（トークバックを1つしか使用しない場合は、ステップ9のMonitors Configurationに従ってください）。
- 2つ目のトークバックを使用したい場合は、Settings > Talks ページに戻ってTalk 2を選択してください。

Anubisの背面にある XLR/Combo入力1 に接続されたマイクをGPI（フットスイッチ）でトリガーするために、Anubis > Settings > I/O > Triggers で2つ目のトークバックを設定してください。

まず、Anubis > Settings > I/O > Triggers で GPIO が Enable になっていることを確認し、Talk2 を使用するように Action を設定してください。

Note : GPIOは、Anubisファームウェアv1.0.13以降で使用可能です。

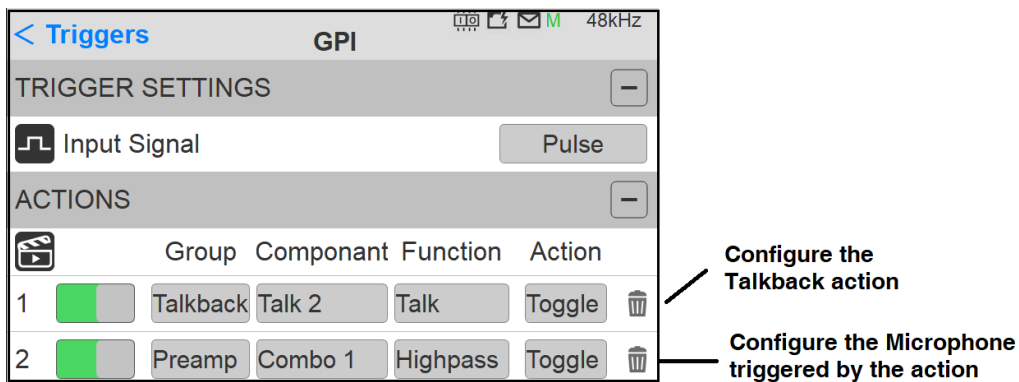
以下の例では、フットスイッチをAnubisの背面にあるGPI入力に接続します。

2つ目のトークバックをトリガーするには、2つのアクションが必要です。

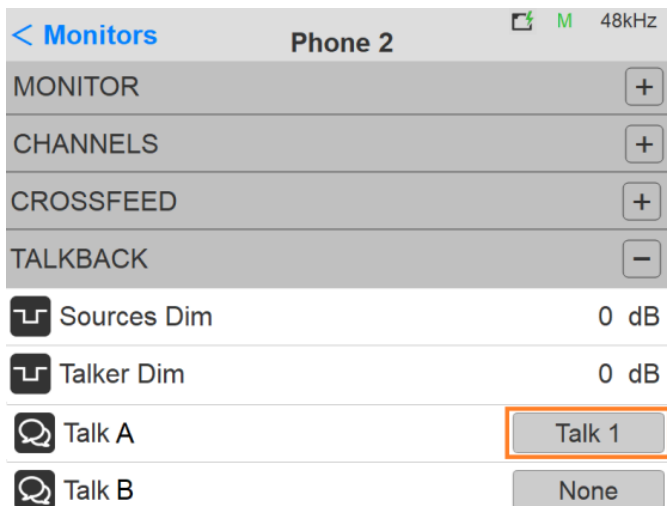
- 1つ目のアクションは、Talk 2として設定したトークバックを Toggle モード（On/Off）にします。



- 2つ目のアクションは、特定のマイク（Combo 1）を有効にし、フットスイッチが作動したときにこのマイクを開きます。



10. 各モニターは、トークバックを受信するかどうかを設定できます。モニターの設定は、Settings > Monitors で行い、トークバックを受信したいモニターを選択します。
11. この例では、エンジニアが Anubis 内蔵マイクを使って、Headphone 2をモニターしているミュージシャンやテクニシャンとコミュニケーションをとります。



12. それでは、Phone 2 の Monitor の設定を開いてみましょう。

モニター設定（Phone 2）の下部に、トークAとBの設定があります。どのトークバックがこのモニターに割り込むかを選択してください。

Talk が None に設定されていると、トークバックがモニターに割り込むことはできません。Sources Dim と Talker Dim の詳細については、ユーザーマニュアルの Talkback 設定の説明を参照してください。

Note : 1つのモニターセットで最大2つのトークバックを有効にすることができます。

13. 2台目の Monitor set で Talk B を使ってトークバックを使用するように設定します。2台目の RAVENNA / AES67 デバイスを使用する場合は、まずANEMANで接続を行い、Talk 2 をパッチします。

この例では、Producer の Talk 2 が Conductor のモニターセットに割り込みます。



< **Monitors** **Conductor A** 48kHz

2 0.0 dB 0.0 ms

TALKBACK

Sources Dim 0 dB

Talker Dim 0 dB

Talk A

Talk B